

Book

## エゴシステムから エコシステム金融へ

現代社会において「お金」という存在は、あらゆるモノやサービス交換のための基準となり、強力な力を持っている。故に、人や地球環境の生命を損なうことも救うこともあり、それ自体に大きな責任があるように感じてしまう。

本書のタイトル「Just Money」の、「Just」には、「fair」（正しい、公正な）と「only」（ほんの…にすぎない）という2つの意味がある。本来の「お金」は、公正で人々の幸せを実現する社会のための道具でしかない。

SDGsの機運が高まる今、社会的に大きなインパクトを持つ金融機関だからこそ成し得る、エコシステム金融への

挑戦を紹介し、金融の未来や経済モデルについて一石を投じる一冊である。



『Just Money  
— 未来から求められる金融』  
カトリン・カウファー/  
リリアン・ステポネティス(著)  
江上 広行(監訳)、大濱 匠一(翻訳)  
一般社団法人金融財政事情研究会  
(2022年3月)  
定価 2,200円(税込)

Place

## 様々な人の「？」が集まり、 つながる場所

地域を構成する多様な住民たちが、普段感じている地域社会への疑問や悩みを発信したり、解決に向けて相談したりできる場は決して多くない。

「QUESTION」は一人では解決できない「？（問い）」に対して様々な分野の人が集まり、答えを探しにいく、京都信用金庫が運営する共創施設である。

8階建てのフロアには、コワーキングスペース、コミュニティキッチン、学生が集うオープンスペース等、多様な人々が気軽に集う場を提供している。さらに、コミュニティマネージャーが在籍し、ビジネスマッチングやプロジェクト

の伴走支援を行うことで、これまでも数多くの事業創出が実現している。

地域のオープンノベーションの拠点として、これからも目が離せない。



QUESTION (クエスチョン)  
<https://question.kyoto-shinkin.co.jp/>

Book

## ネイチャーポジティブ経営への パラダイムシフト

今年、自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)が開示枠組みの発表を予定しているように、世界は急速にネイチャーポジティブ(自然再興)経営に向けて動き出している。

持続可能な経営を追求し、生物多様性の危機をビジネスの機会に反転させるために企業が必要なことは何か。また、ステークホルダーは投資判断として企業のどこに目を向けるべきか。

投資家、企業経営、現場の事例の紹介等により、これまでの枠組みや社会の流れが、自然再興経営へ大きくシフト

している潮流を知ることができる。



『ESGとTNFD時代の  
イテから分かる  
生物多様性・  
ネイチャーポジティブ経営』  
藤田 香(著)  
日経BP(2023年4月)  
定価 2,860円(税込)

Website

## グリーンファイナンスの 包括的ポータルサイト

サステナビリティへの貢献や脱炭素経営への関心の高まりにより、グリーンプロジェクト等環境分野に特化した資金調達方法としてグリーンファイナンスの需要が増大している。

「グリーンファイナンスポータル」では環境省による、グリーンファイナンスの概要(グリーンボンド・グリーンローン等)や、国内ガイドライン、国内外のグリーンファイナンス市場普及の状況、国・自治体や事業者等による資金調達事例等に関する、包括的な情報を知ることができる。

成長期を迎えているグリーンファイナンスにおいて、最新の情報源として、定期的にチェックしていきたいポータル

サイトである。



グリーンファイナンスポータル 環境省  
<https://greenfinanceportal.env.go.jp/>